

# 育成会 指導者コンパス（目指す姿）

## 1. 常に学び続けましょう

自らの経験だけに基づいたコーチングから脱却し、国内外のスポーツを取り巻く環境に対応した効果的なコーチングを実践するため、最新の指導内容や指導法の習得に努め、子どもと指導者の誇りのために学び続けることが必要です。

## 2. 自らの「人間力」を高めましょう

コーチングが社会的活動であることを常に自覚し、自己をコントロールしながらプレイヤーの成長をサポートするため、グッドコーチに求められるリーダーシップ、コミュニケーションスキル、論理的思考力、規範意識、忍耐力、克己心等の「人間力」を高めることが必要です。

## 3. スポーツで育てよう

子どもたちを取り巻く環境は大きく変わっています。近年は様々な理由で、人とコミュニケーションをとることが苦手な子が増えています。スポーツは多くの人との関わりで成り立っています。今の時代だからこそ、スポーツを通じて教えられることがたくさんあります。

## 4. プレーヤーを尊重しましょう

時には厳しい指導が必要な場面もあります。しかしプレイヤーの人格を否定するような言動や、指導者の感情による叱責や差別は許されません。プレイヤーの人格及びニーズや資質を尊重し、プレイヤーの意見を聞くなど相互の信頼関係を築き、常に効果的なコミュニケーションにより、スポーツの価値や目的、トレーニング効果等についての共通認識の下、公平なコーチングを行うことが必要です。

## 5. 楽しませることができる指導を心がけよう！

楽しいか楽しくないかはスポーツを継続するための大切な要素です。楽しいと感じるためには、適度な活動時間と安全な場所、スモールステップで克服できる課題設定などの要素があります。「楽しい=楽（らく）」ではありません。困難を乗り越えてできなかったことができるようになる楽しみにもあります。まずは活動する面白さと活動後の爽快感を体感できるように工夫しましょう。

## 6. コーチの社会的信頼を高めましょう

コーチング環境を改善・充実するため、プレイヤーを取り巻くコーチ、家族、マネージャー、トレーナー、医師、教員等の様々な関係者と課題を共有し、社会に開かれたコーチングを行うことが必要です。また、正しいコーチンを実践することを通して、スポーツそのものの価値や高潔性を高めるとともに、スポーツを通じて社会に貢献する人材を継続して育成・輩出することにより、コーチの社会的な信頼を高めることが必要です。

## 7. 健康配慮と安全対策を！

スポーツ障害、熱中症等を防止しプレイヤーの未来が閉ざされることのないよう正しい知識と早めの対応を心掛け、応急手当などの講習会、研修会には進んで参加しましょう。子どもは「大丈夫か」と聞けば無理をして「大丈夫です」と答える場合があります。指導者の見極めが大切です。